

## 新興感染症

山 田 雅 夫

これは英語の Emerging Infection の訳で, “Emerging infections: Microbial threats to health in the United States.” という1992年の米国医学協会の報告に由来する<sup>1)</sup>. この報告は, 新たに発生したり (新興感染症), あるいは再び薬剤耐性を獲得するなどして発生した感染症 (再興感染症) で, その発生が過去20年間に増加したり, 近い将来脅威となるものを取り上げたものである. 表題からもわかるように, 米国内のことについて警告を発したものであるが, 発せられた警告は今や地球規模の問題となっている<sup>2)</sup> (表1). これに対して, 過去10年近くにわたって CDC や WHO はさまざまな対策を講じてきたものの, 状況は益々困難となりつつあり, 公衆衛生の基盤の建て直しの必要性が指摘されている.

例えば, マレーシアのニパウイルス感染症の例を取り上げてみよう. 1998-1999年, マレーシアの養豚農家をニパウイルスによる脳炎が襲った<sup>3)</sup>. もともと森のなかでオオコウモリが持っていたウイルスが, 豚に感染し, 養豚に従事した人を中心に脳炎おこし, 32%が死亡, 15%が重篤な神経学的後遺症を残した. 飼育していた多数の豚を殺処分することで終息している. マレーシア, シンガポールの食肉経営の大規模化を反映をしたものとされている.

このように新しい視点として, 世界の食料問題と新興感染症の問題が浮かび上がる. まず食肉をめぐる問題では, 人口増加による, 過密かつ大規模養豚経営がアジア, 南北アメリカ, ヨーロッパで急速に普及した. 実際, 数万頭規模の養豚場は15年前にはマレーシアでは皆無であったという. また成長促進

目的などに家畜に使用される抗生物質の乱用によりもたらされた抗菌剤抵抗性が, 耐性微生物の重要なプールとなっていて, 世界的に流通する食肉を通して新たな感染症の発生が危惧されている. さらに英国発の牛海綿状脳症 (狂牛病) とヒトの新型クロイツフェルト・ヤコブ病 (nvCJD) との関連が明らかとなり, ヨーロッパ各国への拡大の危惧が現実のものとなったことから, 大きな公衆衛生上の問題となっている. 果物と野菜をめぐる問題では, 先進国で消費される果物と野菜の大半が, 発展途上国で生産され, あるいは缶詰にされる過程で細菌汚染の問題がおこりえる.

次に, 1999年夏に米国ニューヨークで発生した蚊によって媒介される脳炎のアウトブレイクを取り上げる<sup>4)</sup>. 北米大陸には, セントルイス脳炎など, 蚊によって媒介されるウイルス性脳炎は存在したが, 調査の結果, 今回の脳炎はアフリカと中近東に分布する西ナイルウイルスであることが判明した. どのようにして, このウイルスが大西洋を挟んだ北米大陸に突如出現したかは不明だが, いったん侵入すると,

表1 新興・再興感染症の例

ウイルス:

エイズ, エボラ出血熱, ラッサ熱, マールブルグ病, クリミア・コンゴ出血熱, H5N1 鳥型インフルエンザ, ハンタウイルス肺症候群, ニパウイルス脳炎, 西ナイルウイルス脳炎など

細菌:

多剤耐性結核, 腸管出血性大腸菌O157, バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE), ジフテリアなど

原虫:

薬剤耐性マラリア, クリプトスポリジウム症など

ウイルスは越冬し、翌年には東海岸のより広範な地域に感染が拡大している。

我が国の感染症新法では、エボラ出血熱、マールブルグ病、クリミア・コンゴ出血熱の3つのウイルス性出血熱がペストとともに1類感染症に指定されている。さらに「新感染症」というカテゴリーが作られ、我が国に脅威を与える新興感染症に対して、速やかに対応できるよう考えられている。ただし、これまでのところ「新感染症」に指定されたものはない。

#### 文 献

- 1) Lederberg J, Shope RE, Oaks SC Jr, eds. : Emerging infections : microbial threats to health in the United States. Washington D.C. : National Academy Press (1999).
- 2) Fauci A : Emerging Infect Dis (1998) **4**, 374-378.
- 3) Paton NI, et al. : Lancet (1999) **354**, 1253-6.
- 4) Enserink M : Science (2000) **290**, 1482-4.